

[日 程] 2016年3月9日(水) 16:30~17:10 県広域連合事務局

[参加者] 広域連合：能條直幸事務局次長兼総務課長、網本淳資格保険課長、他2名
 県社協：大山正雄藤沢社協会長、田中国雄川崎社保協事務局長、佐々木

[懇談事項]

(1) 被保険者数や医療費の動向について

- 2015年度95万人超で、2016年度101万人、2017年度105万人の見込み。被保険者数の伸びは平均3%程度だが2015年度から2016年度にかけて一番伸びており、6%増だった。
- 医療費は2016年度8187億円、2017年度8773億円の見込み。

(2) 2015年度末財政見通し

- 決算は8月のため今は決算見込みは出せないが、(特別会計は)概ね今年度の予算に沿って推移している。
- 2015年度剰余金は100億円、財政安定化基金は県の管轄だが77億円と聞いている。

(3) 予算案策定(保険料算定)の仕組み

- 平成28年度・29年度は料率改定を行う。議会前だが率直に言うと均等割は現行42,580円を43,429円(2%増)に、所得割は現行8.3%を8.66%(4%増)に引き上げる。
- これまでの傾向を踏まえて財政運営を行いたい。
- 高齢者負担率は10.99%となる。当初国は10%としていたが、高齢者負担率は年々上がる。現行10.7%で、この増加の影響は大きい。その率で保険料が引き上がる。

保険料率の推移

	第1期 2008~09	第2期 2010~11	第3期 2012~13	第4期 2014~15	第5期 2016~17	前期比
均等割額(年額)	39,860	39,260	41,099	42,580	43,429	849円増
所得割率	7.45%	7.42%	8.01%	8.30%	8.66%	0.36ポイント増
保険料上限額	500,000	500,000	550,000	570,000	570,000	

(4) 保険料滞納状況

*資料請求 市町村別の被保険者数・滞納者数・滞納額合計

- 前回(12月懇談)出した資料と変わらない。滞納者数は平成26年度が19,000人でここ3年間は同じ水準だ。

[質疑]

■Q：被保険者の増加率はどうか？

A：(制度開始の)2008年度69万3千人が現在95万人超で、8年で25万人増加した。年間平均3~4万人(3%)増だ。

■ Q : 医療費総額 (の推移) はどうか？

A : 平成 21 年度 (2009 年度) 5939 億円が、平成 27 年度には 8270 億円に増加している。
一人当たり医療費も伸びている。

■ Q : (特別会計は) 毎年黒字か？

A : 赤字の年もあった。2015 年度は 33 億円の黒字だが収入総額は 7000 億円規模で、
0.47%に過ぎない。

■ Q : 今年度 100 億円の剰余金とのことだが、国補助金の精算後の金額か？

A : 精算後の金額だ。

■ Q : 財政安定化基金の積立基準と、他の広域連合の積立額はどうか？

A : 基準は「賦課総額の 3%以上」だ。東京都広域連合は 210 億円だ。当初の用途は不測の医療費増や保険料収納不足に充てるとされたが、途中から保険料引き下げにも使えるようになった。但し、取崩分は翌年返還しなければならず保険料引き上げ要因となる。2015 年度末見込みは約 77 億円で、基金残高は数年間この規模だ。2015 年度は積立せず、保険料上昇を抑制した。2016 年度も積立でない方向だ。

■ Q : 健康診査以外の保健事業はあるか？

A : 健診以外にはない。75 歳到達者を対象に 2015 年度から初めて無料で歯科健診を実施した。ハガキで協力医師の一覧を紹介する方法だが、掛かりつけの歯医者があり、対象も限定的なので受診者は多くない。

■ Q : 医療費適正化計画にあるジェネリック薬品の使用効果はどうか？

A : 新広域計画にもジェネリックの使用を謳っているが、平成 26 年 9 月～平成 27 年 3 月診療分で 5637 万円の効果があった。

■ Q : 滞納が発生する要因は分析しているのか？

A : 収納は市町村の管理だが、今後は収納データを集めたい。集まれば分析する。

[要望]

■ Q : 夫婦の一方が後期高齢者、片方が前期高齢者で国保加入の場合、世帯の保険料は高額となる。保険料の賦課をなだらかにしてほしい。

A : 独自の保険料減免は難しい。

■ Q : 藤沢市の滞納処分の件数は多く、川崎市以上だ。この点はどうか？

A : 滞納処分は市町村の対応だ。藤沢市独自の理由による。最近は各自治体とも収納強化を図っているようだ。

■ Q : 高齢者の貧困が社会問題化している。滞納要因を分析し、(滞納を生まない) 対策を講じてほしい。

A : (趣旨を了承)

■ Q : 保険料が毎年上がるのでは (負担が) 大変だ。健康な高齢者を増やすことが大事だ。歯科健診の実施は評価する。対象を広げてほしい。合わせて、健康増進事業を実施してほしい。川崎市では国保加入者にはプール券が配られるが、後期高齢者医療に移行すると除外され苦情が出ている。プール券は一例だが、広域連合でも (医療費抑制には) 健康増進事業の実施が必要だ。